

## 企画展がおもしろい! ～新しい熊野を見つけよう～



「熊野の匠たち-その手に業あり-」  
に展示した、熊野川のヒラタ船(谷上嘉一氏製作)

熊野古道センターでは、熊野古道や周辺地域の自然・歴史・文化に関する展示を常設展示として行っています。さらに、熊野の魅力を広く詳しくみなさんに知っていただける場所が企画展示室です。ここでは、一年に5、6回のペースで特別な展示を開催しています。

昨年には、文化や歴史をテーマにした企画として、今も受け継がれる七里御浜沿いの「市木木綿」が始まった背景や職人技、製品などを紹介しました。また、自然をテーマに、夏休み企画展「くまのこどうの夏やすみ～生きものは友達だ!～」

を開催。熊野の自然を子どもから大人まで楽しんでもらいました。

また、今年の7月19日～9月8日に開催した「熊野の匠たち-その手に業あり-」では、熊野古道沿いの地に育まれてきた職人の業や作品を紹介しました。今回の企画をきっかけに、匠の業、技術を伝えていきたいという職人の想いが守り継がれてゆけば幸いです。

これからの企画展では、熊野の周辺地域で栄えた伝統産業の「杉葉線香」について紹介する展示や、熊野灘にあった「伝統的な捕鯨」の絵図展を計画しています。

これからも様々な角度から熊野地域をとりあげ、いつ来ても、何度来ても新たな発見をしていただけるような、魅力ある企画展を開催していきます!お楽しみに!



「くまのこどうの夏やすみ～生きものは友達だ!～」  
会場風景



“あぶり”は、尾鷲市梶賀浦だけに伝わる燻製料理で、いわば“漁村のごちそう”です。今年も“あぶり”作りを地元のお母さんに教えていただきました。使う魚は市場に出回らないような小さな魚体のサバ、コガツオ、イサキ、コアジ、タカベなどですが、燻すことで旨みが増し、味付けが塩だけとは思えない香りと味わいになるんです。今回は、賀田湾周辺の海のクルージングや、梶賀の史跡巡りも楽しみました。小さな漁村・梶賀に、他にはない食べ物や祭りなど、独自の文化が残っていることを知り、梶賀をまるごと味わった1日でした。



↑“あぶり”作りの達人  
濱中倫代さん

#### ◀あぶりの作り方▶

- (1) 新鮮な小魚の頭とはらわたを取り除きます。
- (2) 塩をふり、1時間ほどねかせます。
- (3) 10匹程ずつ串に刺します。
- (4) 1時間程、桜の木を燃やした煙であぶって完成。

## 熊野古道講座 「～赤羽の古道と円通閣聖観音巡り～」

地域の人々に「水の神社」と呼ばれ、水路が枯れたことのない赤羽神社や、巡礼者を熊野へ導く「導き観音」として祀られている円通閣聖観音を紀北町教育長の小倉肇さんの案内で訪ねました。また、むかし大洪水の被害に遭いながらも、農家



↑円通閣聖観音像

の人々が土地を開拓し、紀伊長島でもっとも豊かな農村になったと伝えられる下河内地区を巡りました。人々の暮らしとともに育まれてきた豊かな自然や歴史は、まるで観音さまに見守られているかのように、今も、静かに流れています。



↑下河内地区の風景

## まめ熊野塾 Guide & Tips

### 「花の窟」<sup>いわや</sup>

熊野に数々存在する巨岩。その中には御神体として祀られ、古来からの自然崇拜を伝えるものも少なくありません。その代表的なものが熊野市の『花の窟』です。毎年2月と10月に行われる「お綱掛け神事」は、長さ170mの大綱に3流の御旗を吊ります。御旗は御神体と現世の人々を結び、神の恵みを授けるものと言われ、朝廷から奉納されてきましたが、ある年錦の御旗を乗せた船が難破して奉納されず、土地の人が急遽綱を編んで代用するようになりました。神事の数日前から地元の人たちが朝早くから夕方まで御旗と御綱を編む作業は、現在まで引き継がれています。



### 「蝶の熊野詣」<sup>ちょう</sup>

むかしから熊野古道に多くの貴族や巡礼者が訪れた様子を『蟻の熊野詣』と言うことがありますが、皆さんは『蝶の熊野詣』をご存知ですか？10月～11月に“渡り蝶”で有名なアサギマダラが熊野古道へやってきます。蝶の移動範囲は明らかではありませんが、渡り鳥の様に日本列島・台湾を縦断します。この蝶に魅せられた人達のマーキング調査によると、アサギマダラは渥美半島や知多半島を通り、伊勢湾を越え、東紀州にやってきます。そして大内山、尾鷲を越えて



↑アサギマダラとヒヨドリバナ

熊野、新宮と、毎年熊野古道を飛んでくるのです。山登りには最適な季節に、蝶と一緒に熊野詣をするのもおもしろいのではないのでしょうか。



# Event Info. 「絵画を巡る旅 -三重県立美術館コレクション展-

9/20~  
sat.

開催期間/平成20年9月20日(土)~10月19日(日)  
時間/9:00~17:00(入館は16:30まで)  
入場料金/大人300円・高校生以下無料

場所/企画展示室  
特別展示室

三重県立美術館が所蔵するコレクションのなかから、江戸の奇才絵師・曾我蕭白や、近代日本を代表する画家の藤島武二、そして印象派のモネやルノワールなど、優品ばかりを選びすぎり、展示いたします。どうぞご期待下さい。



↑黒田清輝《薔薇の花》大正期油彩

<p><b>子ども向け鑑賞ツアー</b></p> <p>日時：平成20年10月4日(土) 時間：①10:00~、②11:00~、③13:00~、④14:00~ 定員：先着10名 内容：三重県立美術館の教育スタッフが、作品をより楽しむためのツアーを行います。</p>	<p><b>美術セミナー</b></p> <p>「現代美術による街起こし-ベニスと横浜の場合」</p> <p>日時：9月20日(土) 13:30~15:00 場所：三重県立熊野古道センター 展示棟映像ホール 内容：三重県立美術館館長、井上隆邦氏を迎え、講演を行います。</p>	<p><b>学芸員による ギャラリートーク</b></p> <p>日時：9月20日(土)9:20~ 10月19日(日)14:00~ ※約40分を予定 内容：絵画の作品解説をします。</p>
--	--	--

## 11/1~ 企画展 「熊野杉葉線香ものがたり」

開催期間/平成20年11月1日(土)~1月12日(月) (12月31日 1月1日 休館)

杉葉線香とは、杉の葉っぱを粉にしたものを固めて線香にしたものです。林業が盛んで豊富な水資源に恵まれた東紀州では、水車による線香用の杉葉粉生産が盛んでした。“素材も動力も、みな自然からもらう。”それが熊野の里人の暮らしだった頃に育まれた、かつての杉葉線香産業を紹介し、その新たな可能性を追います。



↑熊野市新鹿の線香水車小屋跡

### ひのきアート教室

#### 月別

9月28日(日)：大福と木ナイフ作り、月見の宴  
10月19日(日)：ひのきぞうり  
11月9日(日)：ひのきのスリッパ  
12月14日(日)：お正月飾り

◇時間：13:00~15:00 ◇料金：1,500円  
◇講師：NPO法人海虹路会員 ◇定員：10名

※日程が変更となる場合有り。  
毎週日曜には、うちわやお箸などその場で作れる  
ひのきアート教室開催!

### 新しい熊野古道の歩き方

#### 9月28日(日) 「熊野古道と漁村の風景を訪ねる旅」

交通史研究会々員と一緒に、いまもむかしながらの漁村の風景を残す尾鷲市須賀利と馬越峠をめぐるながら、交通史への理解を深めます。

◇時間：9:00~15:00 ◇参加料：2,000円(昼食代・巡船代を含む)  
◇場所：馬越峠と須賀利 ◇定員：10名 ◇共催：交通史研究会

#### 10月12日(日) 民話の里めぐり「紀州犬と探検!!-熊野の山里-」

紀州犬にゆかりのある民話「峰弥九郎ものがたり」が伝わる御浜町阪本地区を紀州犬と一緒に散策します。横垣峠道では、渡り蝶・マサギマダラに出会えるかも!?マーキングにも挑戦します。

◇時間：9:00~15:00 ◇参加料：1,500円(保険料・昼食代含む)  
◇場所：御浜町阪本 ◇定員：20名

◇講師：花尻 薫 当センター長 亀田昭治氏(横垣・風伝峠保存会)  
山口和洋氏(当センター理事) 清水鎮一氏(当センター監事)

#### 11月30日(日)

#### 「銚子の渡しから馬越越え~江戸時代の旅人に思いを馳せる一日」

渡し船に乗って、清流として名高い銚子川を渡り、「種まき権兵衛」さんの民話ゆかりの地と馬越峠を歩きます。

◇時間：10:00~15:30 ◇料金：大人3,000円/子ども2,500円(昼食・保険料含む)  
◇定員：20名 ◇共催：NPO法人ふるさと企画舎

### 熊野古道写真学校

#### 11月7日(金)・8日(土)・9日(日)

日本を代表する風景写真家の竹内敏信氏を学長に迎え、熊野古道や周辺の自然を舞台にした教室です。楽しい講師陣のもと、豊かな自然といにしえからの歴史に触れながらスキルアップを目指しませんか?

◇参加料：33,000円(2泊6食付)  
◇場所：紀北町・尾鷲市  
◇定員：80名(各コース20名)  
◇選択コース：①熊野古道ゼミ(清水重蔵氏)  
(カッコ内は講師名) ②まちかどスナップゼミ(山口典利氏)  
③ネイチャーゼミⅠ(杉浦清孝氏)  
④ネイチャーゼミⅡ(杉本恭子氏)

◇申込先：熊野市観光公社  
(TEL:0597-89-2999)



### 講座・講演

#### 9月27日(土) 道中記講座 「熊野の道について考えよう!!」

東紀州の陸や海にある様々な「道」についての研究発表と、昔の人の旅日記である道中記についてのミニシンポジウムです。

◇時間：13:30~17:00 ◇参加料：無料  
◇場所：熊野古道センター展示棟映像ホール  
◇定員：50名(事前申込不要) ◇共催：交通史研究会

#### 10月5日(日) 熊野古道講座「熊野の城跡と巨岩巡り」

松本峠から道が続く鬼ヶ城跡と要害山など、いにしえの人々が遺した、歴史的な風景を巡ります。

◇時間：9:00~13:00  
◇参加料：300円(保険料含む)  
◇講師：花尻 薫 当センター長  
◇定員：20名



お母さんのランチバイキング

ランチバイキング 大人(中学生以上) 1,200円  
高齢者(60歳以上) 1,000円  
子供(小学生から) 700円  
乳幼児 無料

営業時間  
am11:00~pm2:00

夢古道おわせ  
味わって感じて  
おわせ尽くし  
http://yumekodo.com/



紀伊半島でこだけ!

海洋深層水温浴施設

夢古道の湯

営業時間  
ご入浴 午前10:00~午後9:00

入浴料

大人 600円(中学生以上)  
高齢者 500円(60歳以上)  
子供 300円(4歳以上小学生)  
4歳未満 無料



# 熊野古道からの のがみ

熊野古道からの  
のがみ

**8** 通目

皆さん、はじめまして。私は、熊野古道「伊勢路」の語り部をさせていただいております。二〇〇四年七月、熊野古道が世界遺産に登録された後、すぐに語り部になりました。やっと、五年目を迎えたところですが、これまで大勢のお客様と出会い、案内させていただく事に喜びを感じております。

語り部をしているおかげで、何度も熊野古道を歩いてきた私ですが、歩けば歩くほど歴史の道の魅力に引き込まれます。まず、誰でも感じるところの石の道のすばらしさです。近くの山から集めてきたという自然の形のままの石を積み上げ並べ、芸術的にさえ見えたりもします。「現代人にはこういった道をまねて造ることはできないだろうなあ。」と思いつつ、先人の石工達の技に惚れられし、そして苦勞が惚ばれます。又、それぞれの峠が、その石積みや並べ方などによって、とても個性的な雰囲気のある顔を持っています。そしてさらに、どれだけのどんな古の人たちがこの石の道を通っていったのだろうかと想像することによって、私は歴史の中に吸い込まれていきます。

汗を流し  
働く石工たち、  
蘇りを本當  
に願いなが  
ら歩く巡礼  
さん、家来  
を従えた紀  
州の殿様：  
など、私の  
想像は尽きません。



↑松本峠の石畳

「今日は、歩きながらタイムスリップしてくださいね！」古道を案内する時に、お客様によく言います。まだまだ暑さ厳しいですが、暦の上ではすでに秋を迎えています。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋。「古道散策」にピッタリの秋。

どうぞ皆さんも一度、タイムスリップして熊野古道を歩いてみてください。



かわむら  
川邑まつよさん(熊野市)  
熊野古道語り部友の会



次は尾鷲市の  
内山裕紀子さん

## 花尻薫からの季節のたよりNo.8 「いぬ・ねこ・くまは何の種類？」

人の周りには野菜をはじめ、食べられる野草・実の成る木・街路樹など様々の緑があり、緑のおかげで生命を保たれています。何百、何千種類の緑には皆、名前がついていますが、これらの植物をコケの仲間・シダの仲間・野草の仲間・木の仲間と、各々和名を明らかにしていきますと、動物の名が多いことに気がつきます。大型動物のウマ・ウシ。中型動物のクマ・キツネ・イヌ。小型動物のネコ・ネズミなどがあります。最も多いのは「イヌ」で「イヌガラシ」「イヌノフグリ」「イヌビワ」など50種類以上あります。

「イヌゴマ」は果実の形が「ゴマ」に、「ネコチチ」は果実の形が、ネコの乳首に似ています。「イヌガヤ」の核といわれている中の実は、にがくて食べられま

せん。「イヌガシ」は「カシ」に似ていますが、少し異なります。「イヌビワ」は秋に熟する低木で熊野古道沿いで見られ、外形が「ビワ」に似ていますので、名が付きましたが、味が悪くてまずく、ビワより劣ります。ネコ・クマは少なく10種類程度です。動物の名がついていると劣ったり嫌われたりします。同じ植物仲間ですのに少し哀れですが、とても美しい色や形で評価しましょう。



↑イヌビワ

### 第5回 おわせ海・山 ツデーウォーク

世界遺産「熊野古道」を歩く体験コースをはじめ、尾鷲市の歴史と自然の恵みが満喫できる、歴史と癒しの道を行くウォーキング大会です。

主催 尾鷲市・(財)日本ウォーキング協会・三重県ウォーキング協会  
日程 平成20年11月15日(土)・16日(日)  
お問合せ おわせ海・山  
ツデーウォーク実行委員会  
(まちかどHOTセンター)  
TEL&FAX 0597-23-8221



- お車：国道42号線で尾鷲市内→矢の浜南交差点を海側へ曲がる→突き当たりを右折→県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)
- 電車：JR尾鷲駅下車→(徒歩5分)三重交通「尾鷲駅口」バス停→「紀伊松本行き」乗車→「熊野古道センター前」下車(バス乗車時間約10分)
- 松阪駅→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

### ☆熊野古道センターニュースレター☆ “熊野古道センターからののがみ Vol.8”

- 発行日：2008年9月11日(季刊)
- 編集・発行：三重県立熊野古道センター(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当：森下
- 連絡先：〒519-3625 三重県尾鷲市大字向井字村島12番4 TEL 0597-25-2666 FAX 0597-25-2667 Mail info@kumanokodocenter.com H P http://www.kumanokodocenter.com/
- 閉館時間 午前9時～午後5時
- 入場料 無料
- 休館日 12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館) 60000080911EM